



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教 100～110 周年標語
감사의 백년, 소망의 백년
感謝の百年、希望の百年
(데살로니가전서 5:18)

2014年5月1日(木) 第730号

発行所 福音新聞社 (1部100円)
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
☎ 03-3202-5398
発行人/趙重來・編集人/金柄鎬
fukuinshinbun@kccj.jp (福音新聞)
shinacho2003@daum.net (担当者)

2014年 復活節メッセージ

闇の中に輝く主の復活

(マルコによる福音書 16:1～8)

金性済牧師(副総会長、名古屋教会)



主イエスの復活について記すすべての福音書に共通することは、マリアたちが、安息日の終わった週の初めの日の早朝に、つまり、十字架で死なれて三日目の朝、葬られた主の体に香料を塗るために墓に行ったところ、墓の中はすでに空になっていたということです。聖書のどこを開いても、見ている目の前で死んでいた主がよみがえり、起き上がった、という記事はありません。私たちは、主の復活の時間について考えてみましょう。

安息日の終わりとは、私たちが今日日曜日と呼ぶ日の朝ではなく、土曜日の日没です。しかし、その時間は、マリアたちは焦る気持ちで主の墓に行きたくても、夜の闇に遮られて、墓には行けなかったのです。彼女たちは安息日が終わっても、夜が明けるまで、ほぼ十二時間、待たなければならなかったのです。そして、十二時間後に、彼女たちが墓に行ってみると、もうそこには主はおられなかった、すなわち、すでによみがえっておられたことになります。

では、復活された主にとって、その十二時間とはどんな時間だったのでしょうか。十字架にかかれる前に、主はすでに弟子たちに、ご自分が十字架にかかり、死なれて、三日目によみがえることを予告されました。その一日目とは、十字架にかかれた金曜日、つまり安息日の前日だったのです。その日、午後三時ごろ、十字架の上で息を引き取られたのち、すでに弟子たちは逃げ去ってしまっていた中で、アリマタヤのヨセフたちが遺体引き取りの、おそらく危険で困難な手続きを済ませて、石の洞穴の墓に埋葬しました。時刻はすでにとっぴりと夜のとぼりが下りていたために、彼女たちは、働くことを禁じられる安息日の始まる前には主の体に香料を塗る機会を逃していたはずで、そして、二日目とは金曜日の日没から土曜日の日没までの安息日を指し、三日目とは土曜日の日没に始まっていましたが、彼女たちはそれから十二時間遅れで夜明けを待ち、墓にたどり着いたのです。一体、主はいつ復活されたのでしょうか。それについては誰も答えられないのです。

確かなこととは、マリアたちが夜の闇に遮られて、自分たちの願うとおりに動くことができなかったとしても、主ご自身はすでに闇の中で死に勝利して、復活されたという真実です。私たちの人生においても、彼女たちのように、前に進みたくても先が見えず、どの道を選べばよいか見えないという、自分の力では振り払うことができない闇のような出来事が私たちの行く手を遮ることが起こります。主イエス・キリストの復活とは何か。

それは、たとえ私たちがまだ自分の行く手を遮る闇のような問題に悩まされているときでさえ、主はもうすでに私たちの行く手を遮る闇に勝利しておられるということです。聖書は、イースターにこの真実を喜びの知らせとして私たちに告げるのです。

マリアたちはもう一つ、心に重くのしかかる悩みを抱えていたようです。三節にある通り、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるだろうか」、つまり、自分たちの力では到底石を動かせないことを、彼女たちは知っていました。しかし、彼女たちは常識的にそのことを分かっている、墓に向かっていくことを断念しなかったのです。

聖書が私たちに告げるイースターの第二の喜びの知らせとは、人には動かせなくとも、全知全能の神にはおできになる、という真実です。主が死に勝利され復活された。それは、私たちは無知で無力であっても、神は必ず、私たちの弱さの中で強くあられ、私たちの弱さと足らなさを助けてくださるという恵みの力の真実です。(第二コリント十二・九)



このイースターの喜びの知らせを福音として告げ知らされる人とはだれでしょうか。それは、あのマリアたちのように、大きな悲しみに遭遇しても、自分の行く手を何度も闇のような出来事に遮られても、また自分の力では到底動かせない重く大きな問題を抱えて悩んでいても、それでも主を愛し、主のもとに向かっていくことをやめず、主に仕えるために働くことを放棄しない人に、主の復活は必ず喜びの知らせとして告げられるのです。

マリアたちは驚きおののいて、その場を逃げ去ったと聖書に記されていますが、復活の主は彼女たちを先回りし待たれ、彼女たちを、恐れの中で部屋に閉じこもる弟子たちに主の復活を告げる使命の道に遣わされるのです。

私たち、一人ひとりの人生も、今日の在日大韓基督教会も、様々な闇に行く手を遮られ、大きな墓石のように重い問題がのしかかり、悩まされています。しかし、私たちも、あのマリアたちのように、それでも主を愛し、主に仕えるために道を進み続けましょう。主はすでに死に勝利し、闇の中で復活の光を放たれておられるのです。復活の主が、必ず、私たちを恵みの力で助け、私たちの方向を、喜びを分かち合う道へと変えてくださることを信じましょう。

＜西部地方会＞

第25回 信徒修練会開催



去る2月10日(月)から11日(火)まで、兵庫県姫路市にある「ニューサンピア姫路ゆめさき」にて、「第25回西部地方会信徒修養会」が教育部主催で各教会の協力を得て、恵みの中で開催された。

今回の講師は、權赫承牧師(ソウル神学大学校の神学大学院長)で、主題は「神の優先的な関心と最終的な関心」という題だったが、参加者たちに力強い励ましと希望のメッセージを語った。

第一の講義には、「我と共に歩む神様」(創世記3:8-10)という題で、ヘブライ語を通して、「神さまはいつもわたしたちと共に歩きますし、散歩してくださいます」ことを強く強調した。

第二講義では、「完全な者として下さるシャロームの神さま」(民数記6:22-26)という題で、「シャロームに含まれている言葉の意味は、この世が与えることの出来ない喜びがある」と力強く述べた。

開会礼拝は、中江洋一牧師(西部地方会会長)が「誘惑の中で」(マタイ4:1-11)という題で説教した。そして、早天祈祷会は梁榮友牧師が「日が暮れるまで」(エフェソ4:6-27)という題で説教した。閉会礼拝は韓澤柱牧師が、「ハンナの祈り」(サムエル記上1:1-11)という題で、説教して閉会した。

一同が受けた恵みを考えると一泊二日は本当に短い時間であったが、神さまの恵みと祝福が溢れる修養会となった。参加人数は、大人52人、子供が8人だった。

(報告:韓澤柱、教育部書記)

＜関西地方会＞

二つの教会で新年査経会

去る1月11日(土)から13日(月)まで関西地方会の新年査経会が伝道部主催で、大阪地域は大阪教会で、京都地域は京都教会でそれぞれ開催された。今回の新年査経会は、康文鎬牧師(ソウル、カルバリ教会)が講師だった。康牧師は現在韓国幕屋(성막)研究院院長であり、WEC宣教会理事として在職中である。特に、幕屋に関連した書籍を90巻以上著述し、25年にわたり幕屋セミナーを250回以上行うほど幕屋関連セミナーの専門家であり、フィリピンに237箇所の教会を建築するほど宣教にも情熱的である。

はじめの集会は、11日(土)午後7時から大阪教会で宋南鉉牧師の司会はじまり、大阪教会の聖歌隊が讃美の奉仕をした。二回目の集会は、12日午後3時から大阪教会で、関西地方会各教会が連合して集まり、趙永哲牧師の司会で関西地方聖歌隊連合会が讃美で神さまの栄光をたたえた。

また、12日(主日)午後2時から京都教会では、関西地方会教役者会主催で金鍾権牧師の司会で、康牧師が教役者師母セミナーを導いた。教役者と師母が約30数名参加して幕屋に関連した最新情報をはじめ、幕屋にあらわれたイエスキリストを照明した。



最後の集会は、13日(月)午後6時から京都教会で、李教錫牧師の司会で開催された。礼拝中には、京都教会聖歌隊の讃美、特に関西地方会教役者一同の特別讃美があった。

新年査経会は、関西地方会各教会が御言葉で大きな恵みを受けて、一年を忠実に生きて行きたいと誓いながら心から祈る恵みの時であった。新年査経会の為に大阪教会と京都教会が場所を提供し礼拝を準備したし、多くの牧会者と信徒たちが祈祷と讃美、伴奏、通訳、案内などで奉仕した。今後も関西地方会の各教会が連合して、御言葉から恵みを受け、祈りと伝道に専念できることを願う。(報告:宋南鉉牧師)

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル:東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様の会議及び宿泊研修(50名)も可能。
・スペースYホール:200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
・韓国文化教室【チャング・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種こどもクラス
・YMCA東京日本語学校【3ヶ月～2年、短期研修】

関西◆にほんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャング】

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/>

東京韓国YMCAアジア青少年センター ☎ 101-0064

関西韓国YMCAアジア青少年センター ☎ 537-0025

*会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎ 03-3233-0611

大阪市東成区中道3-14-15 ☎ 06-6981-0782

税 込	平 日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー¥200(宿泊者価格)		

<第 10 回 WCC 釜山総会報告> 3

いのちの神よ、私たちに正義と平和へと導いてください

目から鱗が落ちるような経験をしたのは、本会議 (Business Plenary) だった。コストコ 1 店舗ほどの広さのある大きな会場に、1000 席ほどの座席が配置され、正面のステージ上には WCC 役員たちのための席がある。前の左右には大きなスクリーンが設置され、発言者の姿や所属・名前、また現在討議中の文書内容などが映し出されるようになっている。

ここが、世界の 345 加盟教団から派遣される 700 名以上の総代たちが一堂に集い、議事を進行する場所である。後のある報告会で、WCC 中央委員であられる西原廉太先生が WCC 総会を「公会議的な側面を持つ」と話しておられるのを聞いたが、まさにその表現がぴったりの迫力である。ニカイア、コンスタンティノポリス、カルケドンなど古代に開かれ、教会の歴史に決定的な影響を及ぼしてきたあの公会議の現代版、と言っても決して過言ではない。

それほど WCC 総会は世界のキリスト教を網羅しておき、また代表している。その議場の中に「Korean Christian Church in Japan」と書かれたカードの載った席を発見した時は感動を覚えた。総信徒数 5,000 人に満たない小さな教団だが、世界の教会が一堂に集って意志決定をするその場にわり、キリスト教の新たな歴史を刻んでいく共同作業に参加している、という事実に興奮するとともに、在日大韓の WCC 加盟教団への道を開かれた先輩方へ心からの敬意と感謝の念を覚えずにはいられなかった。

本会議は「現代の公会議」らしく、実に厳粛に「大人」なマナーに従って進められた。幸運にも在日大韓は日本聖公会の隣の席を用意され、私は本会議の間中、西原先生の解説を聞きながら座っていることが出来た。すべての議決は「コンセンサス方式」という独特なやり方によって行われる。各教団の総代たちには、あらかじめ自分の意思を表明するためのオレンジカードとブルーカードが配られ、賛否の意思表示を求められた時は、賛成の場合はオレンジ、反対の場合はブルーカードを掲げる。その数の多少によって意志決定がされるのだが、ブルーカードを掲げた少数者たちは発言が求められ、その発言は記録される。そして原則的には、ブルーカードがほぼなくなるまで、慎重に少数者の意見に傾聴するのである。発言をしたい総代は、議場の各所に置かれた 5 つのマイクの後ろに列を作って並び、静かに自分の順番を待つ。

自分の番が来ると、まず、どの教団を代表する誰である、ということをはっきりと明かし、「Thank you, moderator.」と発言の機会が与えられたことに感謝の念を述べるのがマナーのようだった。発言時間は 1 分半で、それを過ぎると「チーン」とベルを鳴らされる。どんなに素晴らしい発言であっても、時間を超過すれば評価されない雰囲気の中で、たった 1 分半の短い時間をいかに有効に使うか、というテクニックが発言者には要求される。だらだらとした説明や本題に関係の薄い自己主張は禁物で、コンパクトに、明確に、そして人々の心をつかむ強い言説を行わなければならない。



発言者たちのほとんどはこの技術に長けていた。そしてその発言をサポートしたかったり、反対の意を表したい場合、総代たちは自分のカードを掲げるのである。時折、発言への支持を表すために拍手がされて議場の雰囲気は乱れたりもしたが、そのたびに議長は「拍手はせず、カードを見せるように」と厳しく律していた。

議事運営の「大人さ」やそつのなさには「さすが!」と舌を巻きながら、私は先に行われた私たちの定期総会を振り返った。不規則発言や本筋と無関係な演説めいた発言など、私たちの議事運営は、キリスト教会の議会として本来あるべき姿からはあまりにも遠い。

それをはっきりと知るために、次世代を担う人材たちはこのような場所に出て、もっと見聞きしなければならない。そうしてこそ、KCCJ はより「大人な」世界レベルの教団へと成長できるのではないかな? 自分に与えられた素晴らしい機会に感謝しつつ、心からそう思った。(次号へ続く)

(報告: 許伯基牧師 つくば東京教会/総会事務局幹事)

<中部地方会>

1 日研修会開催

去る 2 月 21 日 (金) 午前 10 時 30 分より、名古屋教会において中部地方会女性連合会・青年部主催の一日研修会が開催された。第 1 部は、講師の後藤喜良 (ごとうきよし) 牧師 (同盟福音・大垣キリスト教会、東海聖書神学塾・教務主任) が「私の聖書味読作法」というテーマにて、聖書の世界にのめりこんでいく読み方等、資料をもとにユーモアも交えわかりやすく力強い講演がなされた。

また、第 2 部においては、黄善花執事 (千種・純福音名古屋教会) による韓国舞踊の指導があった。息を吸って、吐いて、腕を、足を、とアリランの曲に合わせて全身を使い、汗をかきながらも楽しく学ぶことができ、充実した研修会であった。(報告: 金淑子、青年部長)

在日韓国・帰化人・再婚希望者専門

芦屋ルツ結婚相談所

祈りと心尽くして!

出会いからご成婚までお世話いたします。

代表: 崔貞淑 (神戸東部教会勸士)

〒659-0012 兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町 10-35-504

TEL: 0797-34-6814 / FAX: 0797-38-6868

URL: www.ar-k.jp / e-mail: gen@reboth.jp



豊かな味、豊かな心。



妻家房

SAIKABO

代表取締役 呉永錫 (東京希望キリスト教会 長老)

四谷本店: 東京都新宿区四谷 3-10-25 Tel. 03-3354-0100

＜3.11 東日本大震災国際会議＞ —フクシマからの問いかけ—



＜写真：日本基督教団提供＞

2014年3月11日～14日、日本基督教団は仙台の東北学院大学で、「原子力安全神話に対抗して—フクシマからの問いかけ—」という主題で東日本大震災国際会議を開催した。この会議には、世界各国と日本から約200人が参加して、開会礼拝とメディテーション、講演とパネルディスカッション、現地での報告、そしてグループ・ディスカッションの後、閉会礼拝で終わった。

大震災3周年礼拝と記念講演は一般公開され、550人が集まった。姜尚中教授（聖学院大学学長）は、「犠牲のシステムを超えて—ミナマタ・ヒロシマ・フクシマ—」という題での講演の中で、「今の時代にマイノリティであるキリスト教の役割は方向性を知らしめる事である」と述べた。基調講演で、島蘭進教授（上智大学）は、「原子力発電の非論理性と宗教からの声—福島原発災害後の苦難の中から—」と題して、「急速な経済発展の途上で、「効率」という安易な基準に流され、道筋を見失っている」と指摘した。また、近藤勝彦牧師（前東京神学大学学長）は、「エネルギー政策転換のカイロス—キリスト教神学の視点から福島原発事故を考える—」という題で神学の観点から講演した。

現地からの報告は、会津放射能情報センターとアジア学院、海外教会（ドイツ、台湾、韓国、スイス、アメリカ、ドイツ、カナダ）からあった。海外から来日した参加者たちは、被災地の現場をスタディツアーをしてから帰国した。

在日大韓基督教会では3人が参席した。メディテーションでは、金炳鎬総幹事の祈祷後、李明信牧師（山形教会）が「命を選びなさい」（申命記30章19節）と題して説教した。そして、外国人被災者支援プロジェクトで実際に会った移住女性たちのエピソード（許伯基牧師作成）の朗読された。

（報告：李明信、山形教会）

＜第9回 海外韓人教会＞ 教育と牧会協議会開催

第9回海外韓人教会「教育と牧会協議会」がアメリカのアトランタ連合長老教会にて、去る2月25日（火）～27日（木）まで、「ディアスポラよ、次世代に向かうヴィジョンを抱け」という主題で、世界の9教団から約60名ほどが集まり開催された。

まず、コロンビア神学大学の礼拝学教授の導きで始まった開会礼拝から、最後に10の宣言文を韓国語、英語で読み上げ一同の拍手を持って終えたすべてのプログラムが有意義なものであった。

KCCJからは9名が参加し、今回の会長として開会礼拝と早天祈祷会を鄭然元牧師が担当した。さらに、分科討議にて「神の奇留者としてのコリアディアスポラ教会」という題で素晴らしい講義をした金性済牧師、次回の総務として選された金柄鎬総幹事などが重要な働きを担っている。

また、教育委員長として参加した全聖三牧師は、「日の出るこの日本に遣わされて、100年以上の歴史を持つKCCJの使命の大きさを知ることができた」と語った。さらに、「神さまの摂理の中で韓民族ディアスポラは、世界175ヶ国に750万人に及ぶと言われている中での体験、また私たちにある神の慰めこそが大いに力を発揮するということ、そして私たち、KCCJこそがリーダーシップを取るべきだと信じる」と述べた。

（報告：全聖三、教育委員長）



＜東京聖民教会（旧、東京源泉教会）住所変更＞

※4月29日より、＜東京聖民教会＞に名称変更されました。

〒130-0022 東京都墨田区江東橋4-30-15

三成ビル1F 電話：03-6806-5854

＜洪領見牧師電話番号＞ 080-9734-9346

2014年 教役者・長老研修会

- ・日時：2014年7月13日（主日）～15日（火）
- ・場所：同志社びわこリトリートセンター
〒520-0501 滋賀県大津市北小松179 / TEL：077-596-0008
- ・会費：30,000円予定（交通費：プール制予定）
- ・協力：女性会、青年会、信徒委員会、歴史編纂委員会等
- ・主催：教育委員会

一歩一歩、クリスチャンの心・命を救うサイト

レホボト・ジャパン
Christian Calling Search Site

<http://www.rehoboth.jp>

Tel: 090-3945-3373
e-mail: info@rehoboth.jp
住所: 兵庫県芦屋市鶴岡 10-35-1

レホボトジャパン 検索